

Global Studies Program

5 日間の 流れ と テーマ を 紹介 します

「アイデンティティー」

自分の持つ才能・強みを理解し、
自分に向いている役割や働き方を
考えます。



1



「バイアス」

物事の見方・捉え方は、育った環境
や文化、コミュニティの影響を受け
ていると気づきます。

2

自分らしさの「表現」

私が自分らしくいられるように、
みんなが自分らしくいられるように。
「安心の場」について考えます。

3



周囲への「貢献」

SDGsについて話し合い、自分の強み
を活かしながら、他者と協働するこ
とを考えます。

4

最終プレゼン

プログラムを通じて発見した
「自分の強み」について、
皆の前でそれぞれ
表現します。

5



DAY

1

「アイデンティティー」

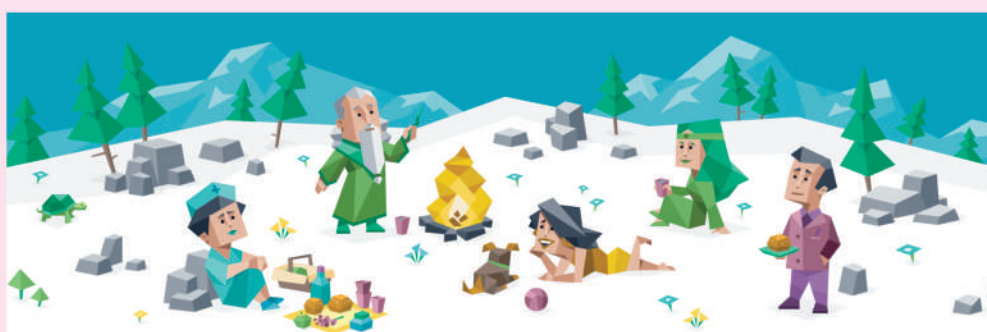
プログラム初日です。「昨日よく眠れなかったから、エナジードリンク買ってきました」なんて人もいるくらい、みな緊張した表情でやってきました。

が、ファシリテーターとグループリーダーたちが部屋に入ってくるとすぐに分かりました。「楽しい5日間になる！」



自己紹介が終わると、早速レッスン開始です。

まず、MBTI (Myers-Briggs Type Indicator) 性格診断を行い、16種類の型のうち、自分がどれに該当するかを確認し、発表します。そしてその結果に納得するかしないかを話し合いました。



日本人に多いのは、INFP(16.4%)やENFP(13.8%)だそう。皆さんはどの型ですか？その結果に納得ですか？

 16Personalities



最初は英語の説明を聞き取ることがやっとで、なかなか英語がでてきません。
 "I agree." "I disagree."は言えるのですが、その後が続く言葉が出てこないのです。

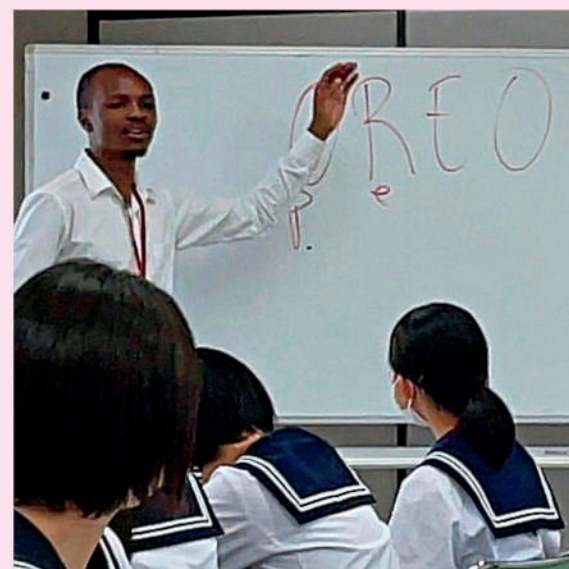
グループリーダーが「この単語を使ってごらん」「これはYes?No?」と優しくサポートしてくれます。

ファシリテーターのマニュアルからは
 「意見を言うときは OREO を使おう。」という指示が。

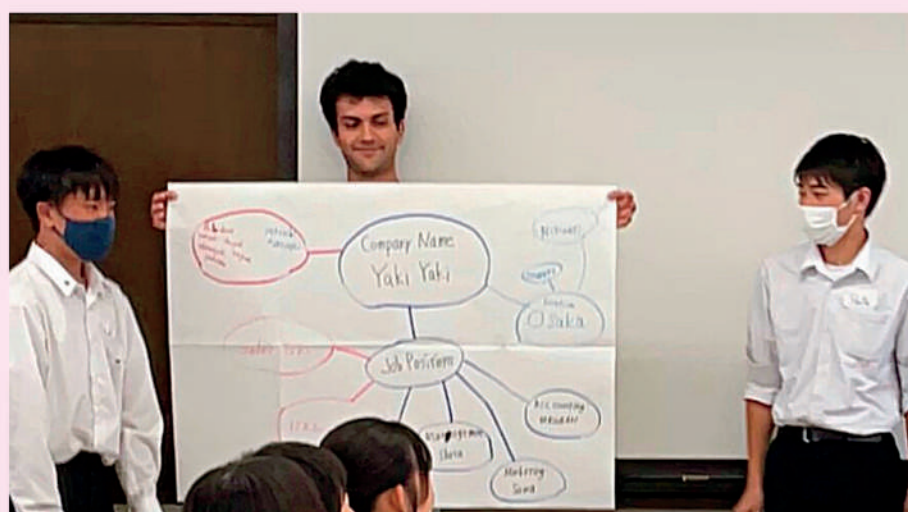
Opinion(意見)
 Reason(理由)
 Example(具体例)
 Opinion

という順序で説明すると

自分の考えを相手に適切に伝えることができます。



グループ発表の課題は、「班で会社を作ります。どんな会社をつくりますか、あなたはどんな役職に就きますか。MBTIの結果を参考にして考えましょう。」



アイディア出しからプレゼンの完成まで20分というタフワークでしたが、どの班もきちんと完成させることができました。今日は「原稿を読んでいます」感がありましたが、ここがスタート地点です。レベルアップしていきましょう。

DAY



「バイアス」



昨日の帰りの挨拶は、"See you TOMORROW !! Come BACK, ok?"でしたが、みんな開始時間よりもずいぶん前に集合しています。

「昨日は"Shy Shy, Bye Bye"ができなかったから、今日はbye byeします！」と目標を宣言してくれました。"Shy Shy, Bye Bye"は、このプログラムの合言葉です。

2日目のテーマは、BIAS (バイアス)。

トイレに行きたいとき、赤いドアと青いドア、あなたはどちらに入りますか？
髪の毛を染めている人と染めていない人、どちらが真面目に見えるでしょうか？
電車でタトゥーを入れている人の隣が空いていたら、あなたは座りますか？



私たちは五感のうち「視覚」に大きく依存しています。見たものをもとに、他者や物事に対しての印象を抱きます。私たちの物事の見方や捉え方に影響を与えているものは何か、話し合いました。

気分転換のアクティビティでは、班対抗の塔作り。マシュマロを頂くスパゲティの塔を、最も高くデザインできる班はどのチームでしょうか。



自分のコミュニティーを表す絵を描き、それを相手に見てもらいながら、相手が注目したことや推測したことと、自分が伝えたかった事を共有し、「同じ」や「違い」を認識しました。



DAY

3

自分らしさの「表現」

3日目はミャンマーのじゃんけんゲームから始まりました。

生徒同士も、グループリーダーたちともずいぶん仲良くなり、和気藹々とした雰囲気です。



が、英語で発言するのはまだまだ緊張するよう。マニュアルがいい表現を教えてくださいました。

「ネガティブな内容を話す時は、stillかyetをつけましょう」

"I am nervous." ではなく、 "I am still nervous."

"I don't speak English." ではなく、 "I don't speak English yet." というのです。

stillやyetをつけることで、「今はまだできないけれど、これから先もずっとできないわけではない。将来はできるようになっているかも。」という意味を込めることができます。

たった一語で、未来の自分に期待する「ポジティブな表現」に様変わりです。

Though students are still shy, they are trying very hard to push themselves up!

3日目のテーマは、Self-Expression (自己表現)。



「全ての人やモノが同じ」という世界はつまらないものです。

昨日までのレッスンで、私たちは一人一人異なる考えを持っていることを理解しました。

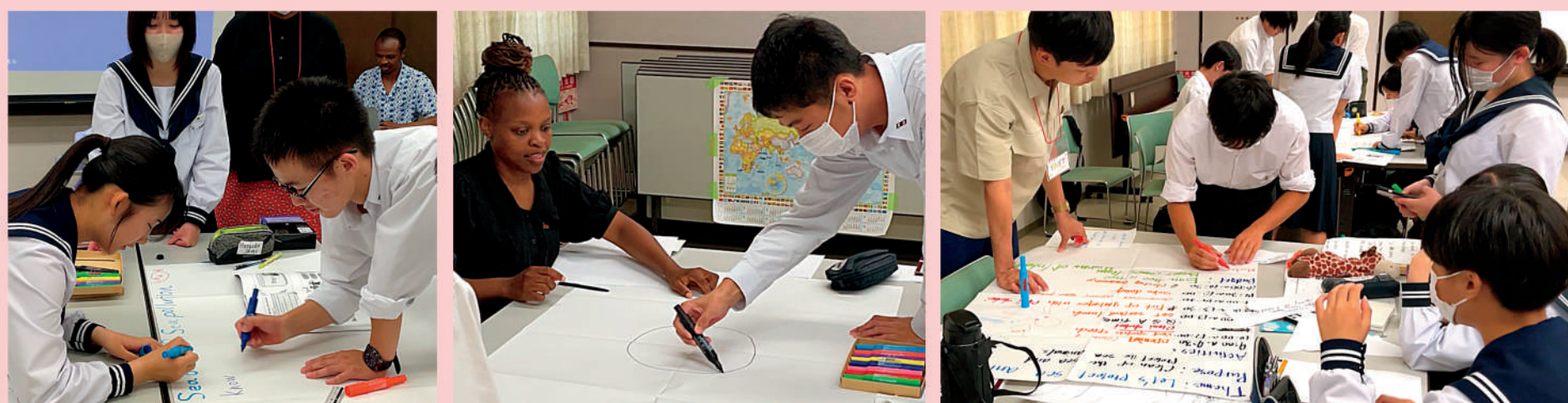
それが自分の中にとどまって、外に見えないままではもったいない。

自分を表現するにはどんな方法があるのか考えました。

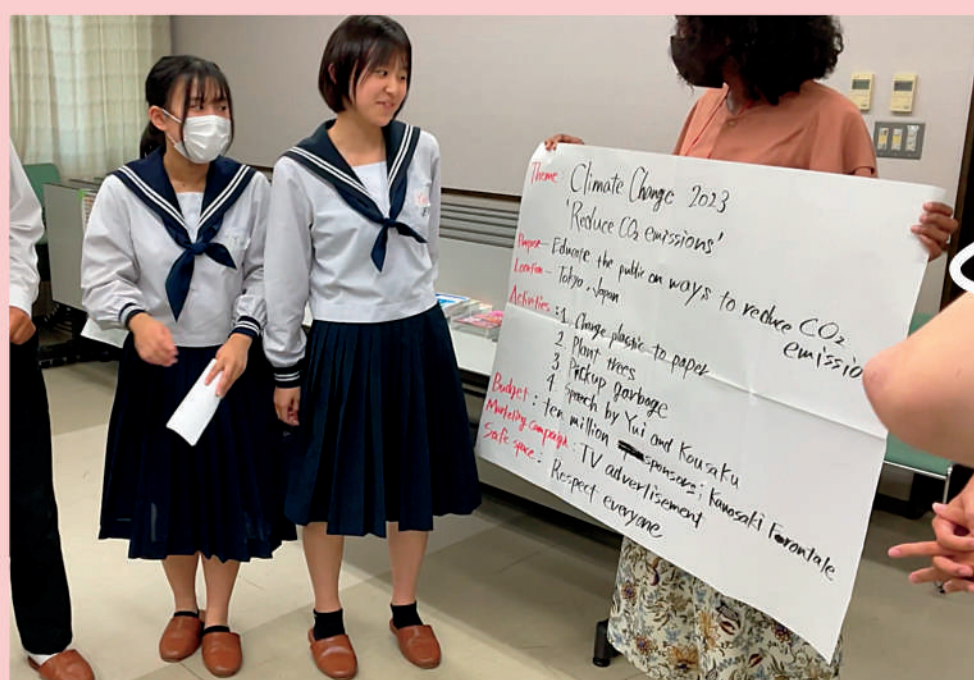
ファッションも自分らしさを表現する方法の一つです。そこで、「自分の好きなもの」をテーマにTシャツをデザインし、相互に紹介しました。



午後は、「自分たちでイベントを企画・運営するとしたら」を考え、プレゼンしました。イベントを運営するにあたって、重要な視点は「参加する人が、安心感を持てる」こと。Safe Spaceであると感じることができる場所であれば、自分を表現しやすいはずですよ。どのようにしてSafe Spaceを確保するのかを考えながら、企画をしました。



グループでの発表は2回目です。1回目のプレゼンより良いものにしようと、発表の練習をし、グループリーダーからアドバイスをもらいます。



Use "GEL"

G...Gesture

E...Eye contact

L...Loud voice

どの班も、明るい表情と大きな声で魅力的なプレゼンを行い、聞き手の関心をひくことができました。



Climate Change



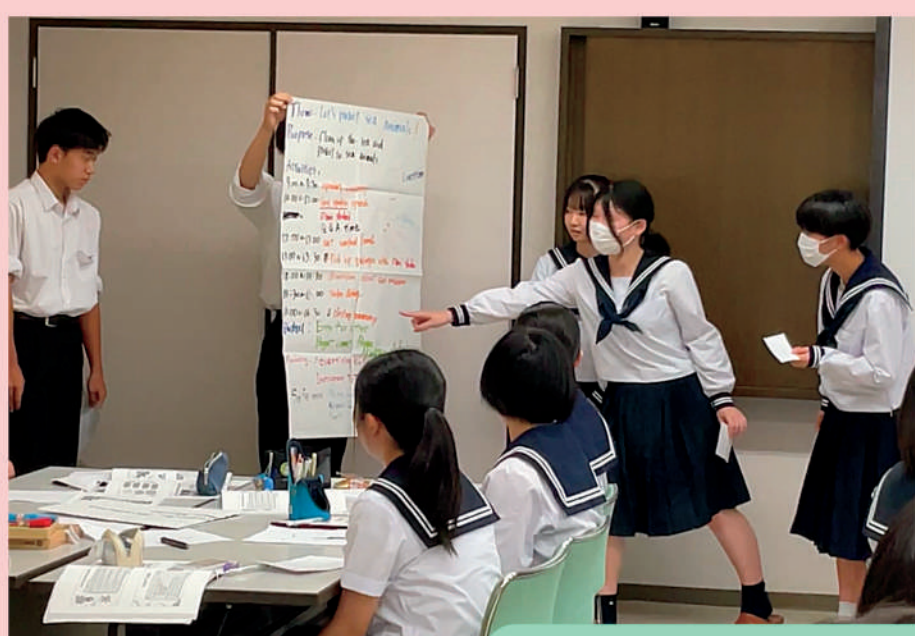
Life Below Water



Global Musical Concert



Education & Peace



Sea Animal & Sea Pollution



DAY



周囲への「貢献」

4日目のテーマは、SDGs。

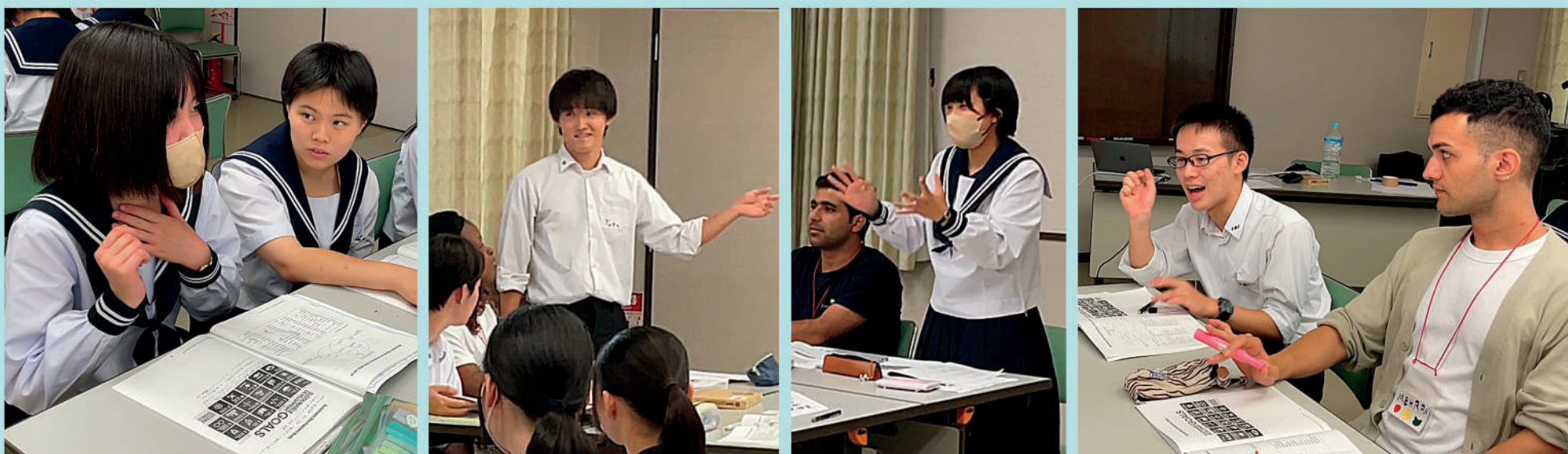
17のGoalのそれぞれの内容を英語で説明し、自分はどのGoalが最も大切だと思うのかを考えました。



生徒によって、関心があるGoalは違います。

教育創造コースに所属する生徒たちからは、"No Poverty"や"Quality Education"、"Gender Equality"を挙げる声が。"Life Below Water"を選んだ生徒は、海岸清掃ボランティアに参加したことがあったようです。

SDGsを自分の身の回りの事柄に落とし込んで、深く考えることができました。



ケーススタディでは、興味深いことがありました。「日本はもっと公園を作るべきだ、agree or disagree?」という問いに賛成・反対がそれぞれ同数。ところがどちらの理由も「環境保全のために」だったのです。思いは同じなのに、公園を作るべきか否かで意見が真逆になってしまったのはなぜでしょう。

全体に向けて意見を述べることに恥じらいはなくなってきました。それぞれが言いたいことがあるとアピールし、自分の意見をどんどん述べていきます。



お昼休み明けには、皆で輪になってパキスタンの踊りを踊りました。



午後からは、最終日のプレゼンに向けての準備を始めました。

まずマニュアルがプレゼンをします。生徒たちは「声が小さい」「自信がなさそう」「楽しんでない」などと批判します。生徒が着目したことのすべてが、良いプレゼンにするための大切な要素です。

明日はどんなプレゼンを聞くことができるのでしょうか楽しみです。



DAY

5

プレゼンテーション

最終日です。生徒たちはプレゼンをより良いものにするために、家に帰ってから内容を考えたり、発音の練習をしたりと熱心に取り組んできたようです。

プレゼンのテーマは

「自分の強みは何か、それを生かしてコミュニティにどう貢献するか。」

自分に自信をつけるには、1に練習、2に練習、3も練習、練習あるのみ。グループリーダーたちにアドバイスをもらったり、メモを見ずにしゃべれるか確認しあったりと、時間ぎりぎりまで練習する様子がみられました。



そして本番です。全員の前で1人で発表することは、本当に緊張することだと思います。さらには、オープンスクールの日でもあったので、中学生や中学校の先生方も教室を訪れてくださり、緊張感はますます高まりました。



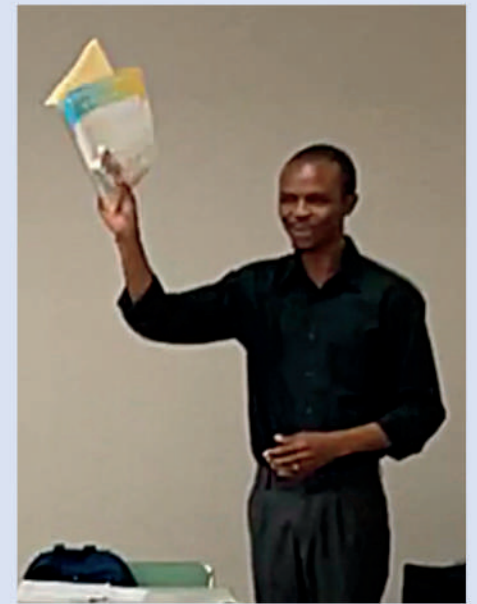
全員が大きな声で、胸を張って、しっかりと自分の強みを表現することができました。また問いかけに応えたり、素敵な表現に拍手したりと、聞き手としての姿も素晴らしかったです。「やり切った！」という表情がとても印象的でした。



その後、グループリーダーからフィードバックを受けます。「いい声だった」、「自信にあふれた姿だった」というポジティブな言葉をもらいつつ、今後に向けたアドバイスももらいました。聞き手の反応を体感した生徒たちは、話すスピードやジェスチャーの頻度なども、プレゼンの質を高める重要な要素であることに気がついたようです。



午後は、プログラム全体の振り返りを行い、閉校式です。クラスは、達成感と寂しさに満ちていました。



Family Photo



It was nice to see students try hard to achieve their goals. They surprisingly improved their English skills and themselves. They are now more active, positive, and attractive.

Sadly this program has ended, but this experience continues to inspire them. They look back on this program with some regrets, such as "I could have spoken more if I had known more words." and "I wish I had done 'shy shy bye bye' earlier", which motivates them to study harder. They also learned very important things such as self-expression and creating a safe space, those are crucial for the daily life. What they learned encourages them to take on new challenges and change their lives better.

I hope this experience continues to inspire and motivate them.

ROSALIA from Namibia



THET from Myanmar



AZIZ from Pakistan



AGUNESS from Malawi



AFIA from Trinidad and Tobago



MEHRRN from Iran

